

入賞作品紹介

⑦

小学生の部親子賞 入選

新聞ってすごい

田村市 郡司 幸さん
関本4年

お母さんが新聞を「カシャカシャ」と広げている音が聞こえると、「ゴンちゃん」を読みたくなり、横から入りこみます。読み終わった新聞は、紙ぶくろに入れられてしまいます。そんな新聞をわたしは、かわいそうだと感じました。

わたしの家では、古新聞をトイレトーパーに交かんしてもらいます。他に利用出来ないかを、家族に聞いたことがあります。もうなくなっ

てしまっ、会ったことがないおじいちゃんが、二時間位バイクに乗って会社へ行く時、寒くなる、ひざが冷たくなってしまつので、風を通さないように、ひざまいていたこと、お父さんが小学生の時に、おじいちゃんのお弁当を作って保温のために包んでいたこと、たたみの下や押し入れの中にしてしっ気をとるために使っていたことなどを、教えてもらいました。

学校では、書写や図工でゆかやくえにしたり、クリーン活動でまどふきに使ったり、じゅ業で新聞を利用しています。

この新聞がどのように作られているのかも見学することが出来ました。記者の人が情報を集めて、記事をパソコンから、記事をパンコンからはやく会社へ送り、一枚の新聞を二時間位で作っているそうです。

苦労して作った新聞が、すぐ捨てられてゴミに出されてしまうのが、何か悪いことをしているような気分になりました。

これからは、気になる記事をさがして読み、

その後は、おじいちゃんのように何かに利用出さないかを考え、新聞をむだにしないような人になりたいと思います。

わたしは、捨てられてしまふ新聞をかなしく思うのではなく、おうえんしたいと思えました。もう一度、ふっかつ出来るように」

母親の背中

母 郡司 千春さん

「新聞に載ったよ」と、売店で新聞を購入して入院中の母の元に届けた。

いつもなら、熱いお湯を湯飲み茶碗に入れて、まだ暗い早朝に届いた新聞を朝日を浴びながら、背中を丸めて読み、最後まで目を通し終わると温か

言って、電話を切った。私は、娘が応募していることを知っていたので名前を探すが出来たが、母は何も知らないはずなのに沢山の名前が載っていた記事から探し当てたことに驚かされた。

たった「三文字」の娘の名前だけでも掲載されたことで会話が弾み盛り上がる事が出来る新聞は、遠く離れて住んでいる母と唯一つながれる存在なのかも知れない。

正直、娘が自ら進んで新聞を広げるといふことは中々ないが、私が読んでいた横から、四コマまんがを読んでいた娘が、いつの間にか身近な記事を探して一緒に並んで読んでいた。

そこ、三歳になる息子が私の背中に飛び乗ってくる。母が猫のように丸まって読んでいる姿を思い出し、私も母と同じだったことに気付かされ笑える瞬間だった。

新聞を読む時間は人それぞれだし、読み方も様々なと思うが、我が家に届く新聞で記事はもちろん使い道などこれからの話題が増えるに違いない。

母は、病気で指が曲がってしまい、新聞をめくることが大変なようだが、また名前をみつけてもらえるよう子供達に何でも挑戦させてあげたいと思った。

読む 知る 学ぶ E! 新聞